

事業番号	372
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	児の森施設管理事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	生涯学習課			
	事業期間	平成18年度			～	平成30年度以降		担当係	青少年育成係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		3 健全な青少年を地域で育てる				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	5	目	4	大	6	中	1
	根拠法令・個別計画	第3次小牧市生涯学習推進計画									
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	エコトイレ・園路の管理、整備を行い、市民が利用しやすい環境を維持する。									
	内容 (手段)	<p>◆24年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然林内のため、環境に対応したエコトイレが設置しており、一定期間ごとの点検整備をした。 ・東部地区の山中にあるため、日常管理は地元区へ委託した。(週2日以上)の清掃管理) ・児の森内では、ボランティアの市民活動グループが月2回程度活動しており、巡視及び風倒木の整理や下草刈りなどの保全活動は月1回程度実施した。 ・月に一回程度、児の森や大山地区周辺の土日の行事の折には、児の森を巡回し管理に努めた。また、異常の連絡が大山地区やボランティア等から入れば、すぐに現場へ出向き対応した。 <p>◆24年度直接経費の内訳 修繕料等 1,145,329円 管理委託料等 184,044円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 修繕料等 1,820,000円 管理委託料等 955,000円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額	
コスト	費用	直接経費	千円	1,569	1,845	1,330	2,775
	正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
		人件費	千円	1,066	1,066	1,066	1,066
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
		人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	2,635	2,911	2,396	3,841
対前年比		%		110.4	82.3	160.3	
財源	一般財源	千円	2,616	2,892	2,396	3,841	
	国・県支出金	千円	0	0	0	0	
	その他財源	千円	19	19	0	0	

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	エコトイレ清掃回数	回	目標	102	102	102
実績				105	103	102	
業	活動グループ整備活動	回	目標	12	12	12	12
			実績	22	13	14	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			市主催講座参加者数	人	目標	240	240
業	活動グループ自主講座参加者数	人	目標	120	120	120	120
			実績	283	123	157	

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	定例的なトイレの衛生管理や、森の保全活動については、順調に目標を達成した。定員に満たない参加者の講座もあり目標達成できなかったが、こまなびフェスティバルや市民まつりなどには、多くの来場者が参加し好評を博した。				
		事業実施における課題	講座の内容がマンネリ化しているものもあり、参加者数が伸び悩んでいるものもある。里山を利用して活動したい団体からの要望があるが、全ての団体から連絡がある訳ではなく、実態把握が難しい。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	兒の森は、愛知県との利活用協定を結び、学習活動の場を提供している。事業の廃止等は、学習活動の里山の保全活動にも影響を及ぼすことが想定される。				
		平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等) ・子どもに体験活動を指導するための指導者発掘の機会としての養成講座を実施し、新たな人材確保に努める。 ・軽易な倒木処理等を迅速に行うため、人夫賃での予算計上を行った。				
		平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
		判定理由	里山での体験活動の機会の提供は、子どもにとって有意義な経験であるだけでなく、保全活動を行う大人にとっても生涯学習のフィールドとして有効であることから、現状維持とした。				
		26年度以降の改善案	兒の森での体験活動の機会提供である各種講座の実施主体を、行政と市民ボランティアグループの協働実施から、市民ボランティアグループの単独実施への移行を検討する。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
		維持